

Asia Indicators

発表日: 2021年10月15日(金)

豪州・雇用、内容は見た目よりも厳しい(Asia Weekly(10/8~10/15))

～行動制限により大都市部を中心に大きく悪化する動きが顕在化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/8(金)	(台湾)9月輸出(前年比)	+29.2%	+25.0%	+26.9%
	9月輸入(前年比)	+40.4%	+41.2%	+46.2%
10/12(火)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	0.75%	0.75%	0.75%
	(フィリピン)8月輸出(前年比)	+17.6%	--	+13.8%
	8月輸入(前年比)	+30.8%	--	+29.5%
	(マレーシア)8月鉱工業生産(前年比)	▲0.7%	+0.6%	▲5.1%
	(インド)9月消費者物価(前年比)	+4.35%	+4.50%	+5.30%
	8月鉱工業生産(前年比)	+11.9%	+12.0%	+11.5%
10/13(水)	(韓国)9月失業率(季調済)	3.0%	--	2.8%
	(中国)9月輸出(前年比)	+28.1%	+21.0%	+25.6%
	9月輸入(前年比)	+17.6%	+20.0%	+33.1%
10/14(木)	(豪州)9月失業率(季調済)	4.6%	4.8%	4.5%
	(中国)9月消費者物価(前年比)	+0.7%	+0.9%	+0.8%
	9月生産者物価(前年比)	+10.7%	+10.5%	+9.5%
10/15(金)	(インドネシア)9月輸出(前年比)	+47.64%	+51.57%	+64.13%
	9月輸入(前年比)	+40.31%	+50.00%	+55.26%

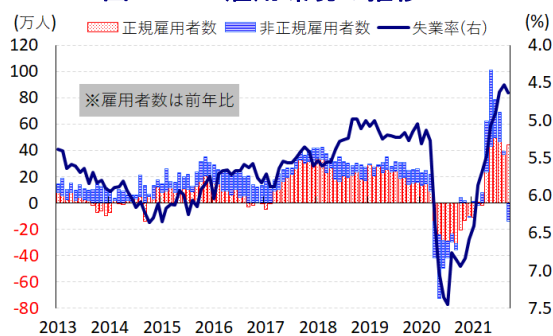
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[豪州]～失業率は小幅悪化も、行動制限の影響で労働参加率は大幅に低下、雇用環境は見た目以上に悪い～

14日に発表された9月の失業率(季調済)は4.6%となり、前月(4.5%)から0.1pt悪化した。失業者数は前月比+0.9万人と前月(同▲2.2万人)から11ヶ月ぶりの拡大に転じており、雇用形態別でも非正規雇用に対する求職者数(同+0.4万人)のみならず、正規雇用に対する求職者数(同+0.5万人)もともに拡大するなど幅広く雇用が悪化しているほか、中期的な基調も減少傾向で推移するもペースは縮小するなど底打ちしている。一方の雇用者数は前月比▲13.8万人と前月(同▲14.6万人)から2ヶ月連続で減少しており、雇用形態別では正規雇用者(同+2.7万人)が拡大しているものの、非正規雇用者(同▲16.5万人)の減少が全体を下押ししている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するもペースは鈍化するなど頭打ちしている。変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染再拡大を受けて、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州のほか、第2の都市メルボルンを擁するヴィ

クトリア州で行動制限が再強化されており、これらの州において雇用調整圧力が急激に強まっていることが影響している。なお、雇用調整圧力が強まっているにも拘らず失業率の悪化が小幅に留まっている背景には、労働力人口が前月比▲12.9万人と前月（同▲16.8万人）から3ヶ月連続で大きく縮小しており、それに伴い労働参加率が64.5%と前月（65.2%）から▲0.7ptと大幅に低下していることが影響している。よって、足下の失業率については見た目の数字以上に悪化していると捉えることが出来る。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド]～食料品価格の低下でインフレ鈍化も、原油価格や行動制限緩和によりインフレ圧力はくすぶる展開～

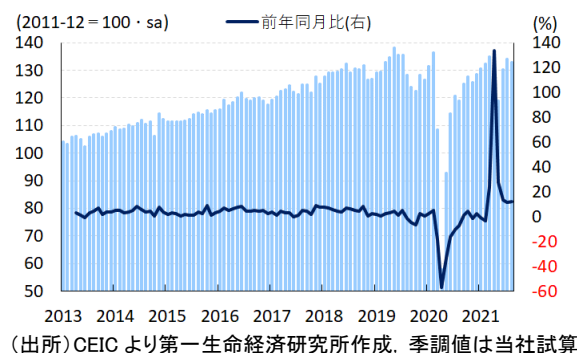
12日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+4.35%となり、前月（同+5.30%）から鈍化して3ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（4±2%）の範囲内で推移している。前月比も+0.18%と前月（同+0.25%）から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格の上昇や通貨ルピー安による輸入物価の押し上げも重なりエネルギー価格は上昇の動きを強めている一方、生鮮品を中心とする食料品価格は新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服を受けた行動制限の解除によるサプライチェーンの滞留解消を受けて下落するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は引き続き高止まりしており、インフレ圧力がくすぶる状況が続いている。エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広い財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、行動制限の緩和の動きが広がっていることを受けてサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、全般的に物価上昇圧力が高まりやすい状況が続いている。

また、同日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+11.9%となり、前月（同+11.5%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。行動制限の緩和を受けて底入れの動きを強めてきた製造業の生産に一服感が出ている一方、国内で需給ひっ迫が懸念されている石炭をはじめとする鉱業部門の生産の堅調さは生産全体を下支えしている。また、製造業のなかでは機械製品関連や金属関連などでの生産一服の動きが重石となる動きがみられる一方、世界経済の回復に伴う堅調な需要を反映して電子部品関連のほか、医薬品など化学製品関連の生産は堅調な推移をみせているほか、食料品など生活必需品関連の生産にも底堅さがみられる。

図2 IN インフレ率の推移



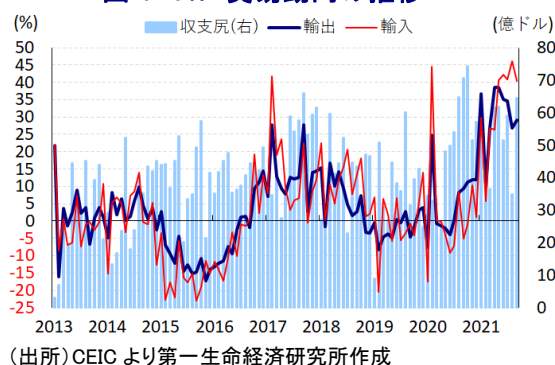
図3 IN 鉱工業生産の推移



[台湾]～世界的な半導体需要の堅調さなどを反映して、月次ベースの輸出額は過去最高を更新している～

8日に発表された9月の輸出額は前年同月比+29.2%となり、前月（同+26.9%）から伸びが加速した。前月比も+1.8%と前月（同+0.1%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いており、月次ベースの輸出額も過去最高額を更新している。世界的な供給不足が続いていることも影響して、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出は引き続き堅調に推移しているほか、電気機械関連の輸出の底堅さも下支えする動きが続いている。国・地域別では、EU（欧州連合）向けをはじめとする欧州諸国向けは頭打ちする一方、米国向けや日本向けは堅調な動きをみせているほか、中国本土をはじめとするアジア新興国向けの底堅さも輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+40.4%となり、前月（同+46.2%）から伸びが鈍化した。前月比も▲5.4%と前月（同+8.6%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も拡大傾向が鈍化するなど頭打ちの兆候がうかがえる。輸出の堅調さを反映して中国本土からの輸入は引き続き拡大している一方、日本やEU、米国などからの輸入の鈍化が全体の重石となっている。結果、貿易収支は+64.46億ドルと前月（+34.76億ドル）から黒字幅が拡大している。

図4 TW 貿易動向の推移

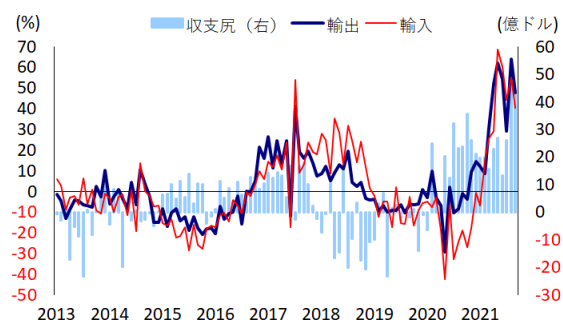


[インドネシア]～原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きは輸出入双方を下支えする展開が続く～

15日に発表された9月の輸出額は前年同月比+47.64%となり、前月（同+64.13%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きを反映して、原油及び天然ガス関連のほか、鉱物資源関連の輸出額が押し上げられる一方、製造

業関連や農産品関連の輸出について底入れの動きに一服感が出ている。一方の輸入額は前年同月比+40.31%となり、前月（同+55.26%）から伸びが鈍化した。前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、輸出同様に底入れの動きが続いている。国際商品市況の上昇の動きを反映して原油及び天然ガス関連の輸入は底堅く推移している一方、その他の輸入の底入れの動きに一服感が出ており、輸入抑制に向けた関税引き上げ策などの影響がうかがえる。結果、貿易収支は+43.71億ドルと前月（+47.48億ドル）から黒字幅が縮小している。

図5 ID 貿易動向の推移

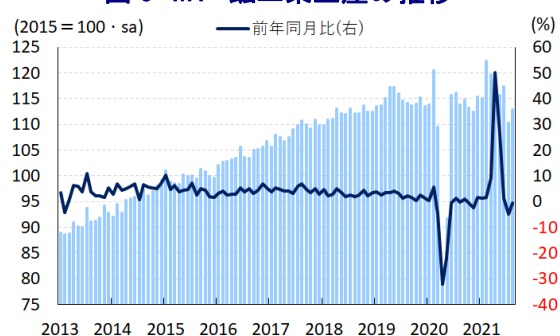


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～感染再拡大による行動制限に伴い鉱業部門の生産は低迷の一方、製造業の生産に底打ち感～

12日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比▲0.7%となり、前月（同▲5.1%）から2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、マイナス幅は縮小している。前月比は+2.33%と前月（同▲6.02%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大に伴う行動制限の影響を反映して鉱物資源関連を中心に生産に下押し圧力が掛かる状況が続く一方、製造業における生産底打ちの動きが全体を下支えしている。主力の輸出財である電子部品関連を中心に生産底入れの動きが促されるなど、外需の動向が生産を左右する展開が続いている。

図6 MY 鉱工業生産の推移

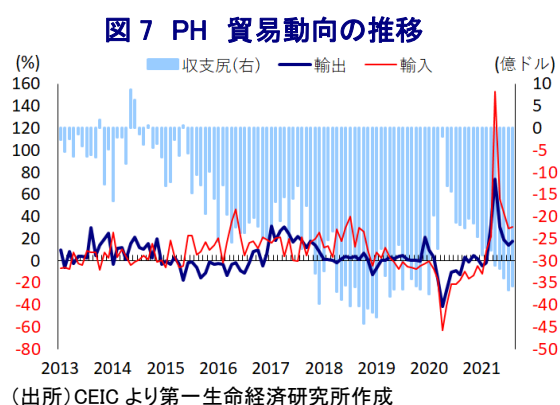


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～主要国を中心とする世界経済の回復の動きを反映して輸出入ともに底堅い動きが続いている～

12日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+17.6%となり、前月（同+13.8%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。国別では、米国やEUなど先進国向けのほか、

韓国及び台湾などアジア新興国向けに頭打ちする動きがみられる一方、最大の輸出相手である中国向けのほか、日本向けの堅調さが輸出全体を下支えしている。欧米や中国など主要国を中心とする世界経済の回復の動きを反映して、主力の輸出財である電子部品関連を中心に底堅い動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+30.8%となり、前月（同+29.5%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移しており、輸出同様に底入れの動きが続いている。輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連の需要が底堅く推移しているほか、原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は▲35.77億ドルと前月（▲36.59億ドル）からわずかに赤字幅が縮小している。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。